

仙台市自転車の安全な利活用推進計画の方向性

自転車利用に関する現状と主要課題

自転車事故の件数は減少傾向だが、令和元年で500件超発生し、また、自転車が第一当事者となる事故件数は横ばいで推移

自転車ヘルメットの着用率は低調、自転車損害賠償保険等の加入率は増加傾向であるもののさらなる向上が必要

令和元年度調査で交通ルールの認知度は64.6%、遵守率は約51%であり、交通ルールを認知しながら遵守しない状況が見受けられる
また、道路環境によって違反有無の割合、違反内容に差異が見られる

アンケートでは自転車の走行環境整備を求める意見等が多いものの、仙台市の財政状況や、限られた道路幅員での整備の困難さ等により、走行環境整備の進捗の遅れが見られる

自転車ネットワーク路線を整備した箇所の事故件数は減少しているが、一部の路線において依然として事故が多く発生している状況が見られる

地下鉄東西線の開業に伴う市営駐輪場の整備等により、市営駐輪場の収容台数は増加、放置自転車及び撤去自転車の台数は減少した
整備から年数が経過した市営駐輪施設の老朽化が進んでいる

コミュニティサイクル事業（DATEBIKE）は、ポート数・自転車台数を増やし、利用回数は年々増加傾向にある

観光客入込数は増加傾向、利用される二次交通手段の割合は徒歩が最も高く、自転車の割合は低い

仙台市の西部地域においては、民間事業者による自転車を利用した観光コンテンツが創出されている
東部沿岸地域では、宮城サイクルツーリズム推進協議会によって「震災復興・伝承みやぎルート」がモデルルートとして設定された

解決に向けた方向性（案）

自転車の安全利用意識のさらなる向上

- 地域の住民や学校、NPO、事業者、行政などが協働で自転車の安全利用の啓発活動に取り組むとともに、世代に応じた安全教育を推進する。
- 自転車利用者一人ひとりの安全利用意識を醸成することで、歩行者や自動車等も含め、みんなが安全・安心に暮らせる社会の実現を目指す。

自転車を安全・快適に利用できる都市環境の形成

- 自転車と道路空間を共有する関係にある歩行者や他の交通機関の利用者が、安全に安心して通行することができるよう、地域の状況に応じた自転車走行空間の整備を進める。
- 都心部における自転車の快適利用、交通結節機能の強化、路上放置防止のため、良好な駐輪環境の整備・更新等を進める。

自転車の強みを発揮した地域の活性化

- 渋滞のない通勤や買い物への利便性、自転車に乗る楽しさや爽快感等、自転車の持つ強みをPRすることで環境にやさしく、健康にもよい自転車の利用を促進する。
- 市内観光における自転車の利便性をさらに高めるとともに、サイクルツーリズムを推進し、地域の活性化を図る。